

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ペーパーペーシェント セミナー		理学療法学科/3年	2019/前期	演習・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	中内 英樹(実務経験有)
授業の概要				
整形疾患、中枢神経疾患に関し、その病態の理解、評価、評価の解釈、評価に基づいた治療計画などクリニカルリーズニング能力を高める。				
【実務経験】中内 英樹：理学療法士として5年以上実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った技術を伝える。				
授業終了時の到達目標				
・事例的疾患に関してその病態の理解、評価、評価の解釈、評価に基づいた治療計画など一貫した考えができる。				
回	テーマ	内容		
1	基本動作1 整形外科疾患	・片側下肢障害例の基本動作		
2	基本動作2 中枢神経疾患	・床上動作(寝返り～起き上がり)		
3	基本動作3 中枢神経疾患	・床上動作(起き上がり～立ち上がり)		
4	整形外科疾患 症例検討1	・股関節疾患症例の情報収集 ・評価項目ピックアップとリスク考察		
5	整形外科疾患 症例検討1	・股関節疾患症例の評価実技練習 ・治療立案と治療練習		
6	整形外科疾患 症例検討1 評価・治療実技発表	・股関節疾患症例の評価実技発表		
7	整形外科疾患 症例検討1 評価・治療実技発表	・股関節疾患症例の評価実技発表		
8	整形外科疾患 症例検討2	・膝関節疾患症例の情報収集 ・評価項目ピックアップとリスク考察		
9	整形外科疾患 症例検討2	・膝関節疾患症例の評価実技練習 ・治療立案と治療練習		
10	整形外科疾患 症例検討2 評価・治療実技発表	・膝関節疾患症例の評価実技発表		
11	整形外科疾患 症例検討2 評価・治療実技発表	・膝関節疾患症例の治療実技発表		
12	中枢神経疾患 症例検討3	・急性期中枢神経疾患症例の情報収集 ・評価項目ピックアップとリスク考察		
13	中枢神経疾患 症例検討3	・急性期中枢神経疾患症例の評価実技練習 ・治療立案と治療練習		
14	中枢神経疾患 症例検討3 評価・治療実技発表	・急性期中枢神経疾患症例の評価実技発表		
15	中枢神経疾患 症例検討3 評価・治療実技発表	・急性期中枢神経疾患症例の治療実技発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・配布資料		実習・実技評価	100.0%	【準備学習】 次回の予習をする。発表時は前もってプレゼン準備をする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習 I		理学療法学科/3年	2019/通年	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
8時間	51回	9単位(405時間)	必須	横川 光代 宮内 貴志子 (実務経験有)
授業の概要				
<p>学校が連携している臨床経験3年目以上の理学療法士(臨床実習指導者)が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。</p> <p>【実務経験】横川 光代:理学療法士として5年以上の実務経験 宮内貴志子:理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 実践的スキルを「複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、ある程度の助言・指導のもとに理学療法が行えるレベル」まで引き上げる。 認知的スキルのトレーニングを積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構築化を学ぶ。 				
授業内容				
1. 各教育領域における実習内容				
<p>1) 情意領域の実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生自らが、能動的に働き、数多くの体験を通じて、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できることを体感または実感する。 意欲を湧きあがらせ、専門職としての自覚と患者志向の考えを確かなものにする。 <p>2) 認知領域の実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価実習で経験した認知的スキル(結果の解釈レベル)をさらに積み重ね、解決策(治療計画の意思決定といった情報処理過程を、指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の関連づけと構造化を学ぶ。 認知的スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。 <p>3) 精神運動領域の実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価学で学んだ反射検査、筋緊張検査、感覚検査、協調性検査等を 模倣からコントロールレベルへシフトさせるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。 				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
<p>1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する。</p> <p>2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。</p> <p>①Daily Report ②Clinical Record (Type1、Type2) ③自己学習ノート ④学生中間評価実施表</p>				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 実習の手引き 学生の心得 配布資料 Daily Report Clinical Record 自己学習ノート 		総括評定	100.0%	【準備学習】 翌日の計画を踏まえ教科書や資料等を参考に事前準備と予習をする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		理学療法学科/3年	2019/通年	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
8時間	51回	9単位(405時間)	必須	横川 光代 宮内 貴志子 (実務経験有)
授業の概要				
<p>学校が連携している臨床経験3年目以上の理学療法士(臨床実習指導者)が勤務する医療施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。</p> <p>【実務経験】横川 光代:理学療法士として5年以上の実務経験 宮内貴志子:理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 実践的スキルを「複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対し、ある程度の助言・指導のもとに理学療法が行えるレベル」まで引き上げる。 認知的スキルのトレーニングを積み重ね、解決策を講じる意思決定過程を指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の構築化を学ぶ。 				
授業内容				
<p>1. 各教育領域における実習内容</p> <p>1) 情意領域の実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生自らが、能動的に働き、数多くの体験を通じて、対象者の抱える問題を理学療法という手段で解決できることを体感または実感する。 意欲を湧きあがらせ、専門職としての自覚と患者志向の考えを確かなものにする。 <p>2) 認知領域の実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価実習で経験した認知的スキル(結果の解釈レベル)をさらに積み重ね、解決策(治療計画の意思決定といった情報処理過程を、指導者とのディスカッションの中からつかみ、知識の関連づけと構造化を学ぶ。 認知的スキルを解釈レベルから問題解決レベルへと進める。 <p>3) 精神運動領域の実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価学で学んだ反射検査、筋緊張検査、感覚検査、協調性検査等を 模倣からコントロールレベルへシフトさせるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。 <p>2. 目標達成のため教育ツールを使用する</p> <p>1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する。</p> <p>2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。</p> <p>①Daily Report ②Clinical Record (Type1、Type2) ③自己学習ノート ④学生中間評価実施表</p>				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 実習の手引き 学生の心得 配布資料 Daily Report Clinical Record 自己学習ノート 		総括評定	100.0%	【準備学習】 翌日の計画を踏まえ教科書や資料等を参考に事前準備と予習をする。